

## 妊婦の GBS スクリーニング検査における増菌培養法と GBS 選択分離培地の併用の有用性

©内田 理絵<sup>1)</sup>、金子 誠<sup>1)</sup>、池田 紗麻里<sup>1)</sup>、内山 京介<sup>1)</sup>、畠山 みり<sup>1)</sup>  
川崎市立川崎病院<sup>1)</sup>

【はじめに】B群レンサ球菌（Group B Streptococcus；以下 GBS）は膣内および腸管内の常在菌であるが、出産時に膣内に存在すると垂直感染により新生児に敗血症、髄膜炎などの重症の B 群連鎖球菌感染症を引き起こすことがある。産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 より妊娠 35～37 週に GBS 培養検査を行うことが定められており、培養方法には選択培地の使用が推奨されている。当院では 2020 年以前からアメリカ疾病予防管理センターで発行されたガイドラインに基づいて GBS の選択増菌ブロスである Todd-Hewitt broth(以下 THB)を用いて増菌培養（以下 THB 法）を行ってきたが、2020 年 9 月より GBS の選択培地であるポアメディア ViGBS 寒天培地（栄研化学）の併用を開始した（以下併用法）。THB 法と併用法での GBS 検出率を比較検討した。【対象・方法】対象は 2011 年 4 月から 2023 年 3 月までに当院で提出された膣入口部および肛門内から連続的に採取したスワブ検体 10,690 件とし、ViGBS 寒天培地導入前後の増菌培養での検出率の集計を行った。方法はスワブ検体をポアメディア羊血液寒天培地（栄研化学）に塗布後、

THB にスワブを浸漬し、どちらも 35°C、18 時間～24 時間好気培養を行った。THB 法では培養液を羊血液寒天培地に塗布したが、併用法では、培養液を ViGBS 寒天培地に塗布し、35°C、18 時間～24 時間好気培養した。比較のため、2023 年 7 月より検体の ViGBS 寒天培地への直接塗布を開始した。【結果】2011 年 4 月から 2020 年 8 月までの GBS の総検出数は 1317 件で、そのうち THB による検出率は 24.5%であった（323/1317）。ViGBS 寒天培地の併用を開始した 2020 年 9 月から 2023 年 3 月までの GBS の総検出数は 321 件で、検出率は 41.7%（134/321）であった。検体の ViGBS 寒天培地への直接塗布のみで検出されなかったものは、2023 年 11 月までに 2 例（2/45）存在した。【考察】THB 法での GBS の検出率が 24.5%に対し、併用法では 47.2%と、検出率の上昇が認められた。ViGBS 寒天培地へ検体を直接塗布したものと併用法とを比較したところ、THB で増菌した培養液を ViGBS 寒天培地に塗布することでしか検出できない例があったことから、併用法は有用だと考えられる。連絡先：044-233-5521（内線 3501）